

第5号 稲作管理特報

令和4年6月3日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、田植以降の好天に恵まれ、全体として平年を上回っています。米の品質を高めるには「根づくり」が重要です。適期の中干し開始と中干し後の間断かん水で「根づくり」を行いましょ。

【コシヒカリの生育状況】

年次	田植日	5月31日			
		草丈 cm	茎数 本/株	本/m ²	葉齢 葉色
R4	5/10	27.6	8.2	166.5	5.9 4.1
平年	5/12	26.3	6.4	130.5	5.5 4.1

1 「中干し」の実施と「中干し」以降の水管理

中干しは、田植え後4週間頃を目安に開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょ。

中干しの開始が遅れると根の伸長が不十分となり、米の品質低下につながります。

中干しは小さなひび割れが入り長ぐつの跡がつく程度まで干しましょ。

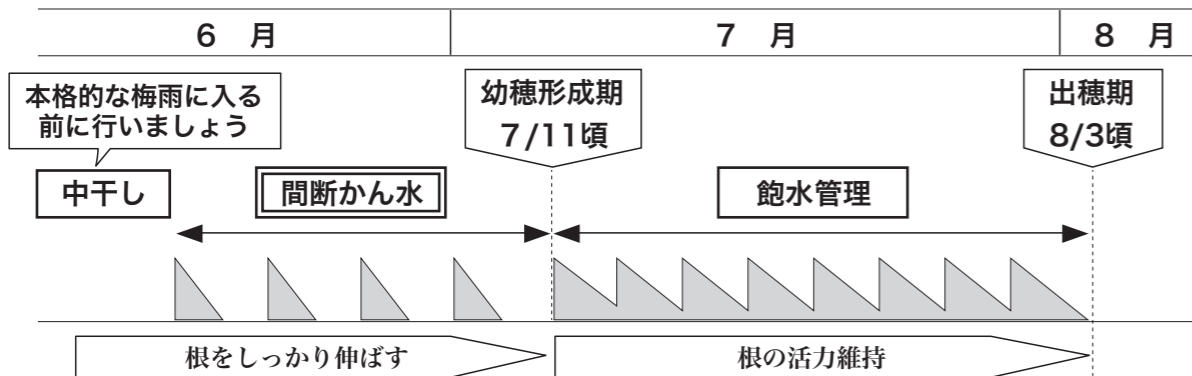
※ 詳細は、前回の稲作管理特報(第4号)をご覧ください。

中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2~3日落水の「間断かん水」で、根に酸素を供給し、伸長を促しましょ。(※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め)



【中干し】

【水管理のイメージ図(コシヒカリ)】



※「飽水管理」(足跡に水が残る程度の状態になったら入水して、土が水分不足にならないような管理を行い、稲が水分不足にならない程度にする水管理。)

2 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の水田土壌(特に、砂壤土)では、「カリ」及び「ケイ酸」の含量が大幅に減少しています。稲の受光体勢を改善し、下葉の枯れあがりを防ぐために、必ず施用しましょ。

施用時期: 6月20~25日頃 施用量: 15kg/10a



「間断かん水」と「飽水管理」で、夏の高温に負けない根づくりを!

3 中・後期除草剤の散布

ノビエや広葉雑草が残ったほ場には、除草剤を散布しましょ。

対象雑草	農薬名	散布時期	10a当たり散布量	使用回数
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後14日~ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	3回以内
ノビエ・広葉雑草	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後7日~ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	1回
	レプラスジャンボ (湛水してから散布する)	田植後14日~ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	パック10個 (400g)	1回
	フォローアップ1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後15日~ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降)(収穫60日前まで)	1kg	1回
広葉雑草	※バサグラン粒剤 (落水してから散布する)	田植後15~55日 (収穫60日前まで)	3~4kg	1回

※バサグラン粒剤は、雑草が局所的に多発生している部分へのスポット処理が可能です。散布は晴天日に行ってください。また、散布後3~4日程度は入水しないでください。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の住みかとなる雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょ

~草刈り作業時の留意点~

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発生しています。雑草地や傾斜地等で作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒などに注意してください。



多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故 飛散物による事故 キックバックによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、すねあてなどの防護の徹底と飛散物カバーを外さないようにしましょ。
刈刃に草などが詰まった際の事故	確実にエンジンを切って取り除きましょ。

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょ。

※ほ場に残っている補植用の苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分しましょ。

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。
 主な情報提供内容
 ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
 ・ 気象情報と災害防止の対策
 右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

